

男女を通じて初の2連覇

圧巻の7バーディー

《第17回九州小学生大会女子の部》

2アンダー 70

嶋田 もみじ（福岡・碓井義務教育学校6年）



男女を通じて大会初となる2年連続優勝。小学生の場合、6年生が圧倒的に強く、連覇というのは簡単ではない。5年生での昨年の優勝が今年の足掛かりとなった。「大会初？ それは嬉しい。でも最後が3パットをして、ちょっと…。もったいなかった」。女子はインスタートで嶋田はアウトの6、7番の連続3パットボギーを悔しがった。

そんなミスもあったものの、持っている実力を十分に発揮した。11番ショートでダブルボギーを叩いたが、12番から3連続バーディー。14番ロング（474ヤード）ではピンまで残り190ヤードを4Wで2オンに成功した。打ち下ろしとは言っても、計算上は第1打が280ヤード以上飛んだことになる。ドライバーの平均飛距離は昨年より15ヤード伸びて220ヤードというが、それ以上かもしれない。後半のアウトでも2番から3連続バーディー。合計7バーディーには驚かされる。

「ツキ」も後押しする。嶋田は国仲咲々（沖縄・坂田小6年）と2アンダーで並んだのだが、大会規定のマッチングスコア方式で勝った。この方式はまずイン9ホールの打数、そしてインの最後の6ホールを比較する。インはともに34で同じだったが、6ホールの比較で嶋田の方が少なかった。この6ホールで嶋田は3バーディー、ノーボギーだった。

身長は昨年より7cm伸びて154cm。「アイアンの精度を上げる」という目標にも近づいた。現在の課題は「グリーン周りのアプローチを50cmにつける」だ。1つ1つハードルをクリアしながら前進する嶋田の全国大会での目標は「日本一」である。昨年は8オーバー80で19位タイ。最上級生となった今年は一味違う姿を披露する。

自己ベストで初優勝 毎日の練習が実を結ぶ

《第17回九州小学生大会男子の部》

2アンダー 70

山中 太聖（鹿児島・伊崎田小6年）



2位に4打差の圧勝劇。昨年の優勝と同スコアの2アンダー70。山中がただ1人アンダーパーをマークした。「前半でパットが入って良かったです。後半はチャンスはあったけど、パットが入らなかった。アンダーパーは自信になります」。これまでのベストスコアはプライベートが71で、試合では75だから、5打も上回ったことになる。

幸先のいいスタートを切る。1番で2mを沈めると、2番でも3mのバーディーパットを決めた。さらに5番でもスコアを1つ縮め、アウトは3バーディー、ノーボギーの33。後半のインは11番でボギーとしたが、そのほかはパーでしのいで37。出入りの少ない安定したプレーぶりだった。

ゴルフは小1から兄の影響で始めた。鹿児島県志布志市の自宅近くの練習場で平日は水曜日の水泳を除いて最低でも2時間は球を打ち、土日はコースを回る。「その練習場で（プロの）池村さんや出水田さんたちもやっていたそうです。グリーンもトラックマンもあります」と環境には恵まれている。昨年のこの大会は予選で落ちて出場できなかったものの、絶え間ない努力で初出場の今回は九州一を射止めた。

憧れのプロ選手はタイガー・ウッズ。「いろんな球を打ち分けられるのが、かっこいい」とそのテクニックに目を向ける。ドライバーの平均飛距離は昨年より15ヤード伸びて、210ヤードという。

これまで全国規模の大会の経験はある。ただ、この全国小学生大会は初めて。「緊張すると思います。ミスをしたくない。うまい人がたくさんいるので、差が開かないようにしたい」と146cmの山中は控えめな言葉で豊富を述べた。